



グループ通信

発行/ふれディアグループ本部 編集部

〒351-0022 埼玉県朝霞市東弁財1-3-4

朝霞台駅前ビル8F

全国相談窓口 ☎ 0120-116-017

こんにちは、ふれディア通信編集部です。 吹く風から暑さが薄れて空気が澄んでくると、秋の到来を感じますね。 過ごしやすい季節の始まりです。 秋といえば「中秋の名月」。 今年の十五夜はいつだろう…なんて、気になったりしますよね。 さて、十五夜というのは満月だと思っている方は多いのではないのでしょうか？ 実は「十五夜＝満月」とは限らないんですよ。 十五夜というのは「新月から数えて15日目の夜」である一方、満月は「新月から数えて14日～16日」と幅があります。 そのため15日目の夜は満月に近いけれども必ずしも満月ではない、ということになるのです。 今年の十五夜は10月1日で、満月は翌日の10月2日。 ちょっと惜しいですね。 十五夜のお月見は、平安時代の宮中行事に起源があるといわれています。 美しい月を楽しみながら和歌を詠んだり、お酒を楽しんだりしたことが始まりのようです。 庶民とは関係のない行事だったお月見ですが、江戸時代に入ってから収穫を感謝する行事として広まっていきました。 作物が月の満ち欠けと一緒に成長していくことから、月には呪術的な力があると考えられていたのです。 そのため、中秋の名月の頃に収穫期を迎える芋類、稲穂を表すすすき、米粉で作った団子などを供える、現在のお月見の形ができていったようです。 ちなみにお月見は、十五夜と十三夜の2回あります。 十五夜は「芋名月」、十三夜は「栗名月」「豆名月」とも呼ばれます。 十五夜は一年の中で一番美しい月を楽しむものですが、十三夜は満月になる手前の美しさを楽しむためのものという説があります。 完成まであと一歩の不完全さを楽しむ感性はこの頃からあったのですね。 ただし、十五夜にお月見をして十三夜にお月見をしないと「片月見」と呼ばれ、縁起が悪いとされていますのでご注意ください。 里芋だけでなく、同じく重要な作物の栗や豆の収穫もきちんと感謝しなくてはいけない、ということなのではないでしょうか。 今からお月見に向けて、お団子のおいしいレシピをチェックしたり、お気に入りの品種の芋や豆を用意したり、すすきの入手場所を確認したりしておきましょう！ ぜひ楽しいお月見を楽しんでくださいね。

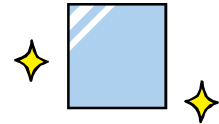
ふれディア通信編集部

“脳トレーニング”で脳年齢を若く・脳を活性化!



スラスラ解ける? 鏡文字の計算問題

次の計算問題は鏡に写ったものです。 暗算で解いてみましょう!



問題1 $\square = 2 \times 9$

問題4 $\sphericalangle \varepsilon = \varepsilon \zeta + \square$

問題2 $\square = \varepsilon \div \partial \varrho$

問題5 $\zeta \Delta = \square - 8 \varrho$

問題3 $\square = 2 \uparrow + \zeta \times \varepsilon \zeta$

問題6 $\varrho 8 = \zeta - \square + \partial \Delta$

“解答”は他のページに載っています。 答えがわかるまでじっくり考えることが脳の活性化につながります!